# 彙　報

## 一　京都哲学会委員の異動

平成七年三月末日をもって、現任委員のうち清水善三氏（停年退官のため）、土井健司氏（退職のため）、浜野研三氏（転出のため）が退任された。また同年四月一日付をもって、芦名定道氏（キリスト教学助教授着任のため）、伊藤和行氏（科学哲学科学史助教授着任のため）が新たに委員に加わられた。なお、木曽好能氏は平成六年十月三日逝去された（別項十一参照）。

## 二　京都哲学会公開講演会記事

平成六年度の京都哲学会公開講演会は、十一月三日午後一時半から楽友会館において、左記のごとく行われた。

一、一般化逆光学について
——知覚と認知の計算理論——
京都大学助教授　乾　敏郎氏

一、鎌倉以降における彫刻の衰微について
——日本彫刻の可能性と限界——
京都大学教授　清水善三氏

講演会は数多くの会員の方々の出席を得て盛会であった。また終了後、京大会館において懇親会をもち、多数の会員が講演者とともに討論、歓談の一時を過ごした。

## 三　外国人学者来訪講演会記事

A・ゴットヘルフ氏（州立トレントン大学教授）
「アリストテレスの生物学における理論と実際」
平成六年七月六日於京都大学文学部

オットー・ペゲラー氏（ボッフム大学名誉教授）
「建築と自律的芸術」
平成六年一〇月二七日於芝蘭会館

マイケル・ダメット氏（オックスフォード大学名誉教授）
「存在・可能性・時間」
平成六年一一月七日於京大会館

トレヴァー・ノーブル氏（シェフィールド大学教授）
「核家族とポストモダーン理論」
平成六年一一月一四日於京大会館

M・M・アダムス氏（イェール大学教授）
「オッカムの行為論」
平成六年一一月二二日於芝蘭会館

本山省三氏（サンパウロ大学教授）
「日本とブラジルの近代化において科学技術の果たした役割」
平成七年六月二七日於京都大学文学部

# 四　京都大学文学部哲学科講義題目

——平成七年度——

※……文学部二回生が履修できる学部科目
〔共〕……大学院と共通
〔院〕……大学院のみ

## 哲　学

講　義　助教授　伊藤　邦武　哲学概論　※
研　究　助教授　伊藤　邦武　ラムジーの哲学　〔共〕
〃　人間・環境学研究科教授　安井　邦夫　現代論理学　〔共〕

演　習
〃　人間・環境学研究科教授　竹市　明弘　Heidegger, *Sein und Zeit*　〔共〕
〃　講師　藪木　栄夫　Kant, *Prolegomena*　〔共〕
〃　講師　小林　道夫　Descartes, *Les principes de la philosophie*　〔共〕
〃　講師　宗像　恵　Leibniz, *Nouveaux essais*　〔共〕
〃　助教授　伊藤　邦武　卒論演習
〃　助教授　伊藤　邦武　哲学の諸問題　〔院〕

## 西洋哲学史

講　義　教授　内山　勝利　西洋古代哲学史概説　※
〃　教授　山本　耕平　西洋中世哲学史概説　※
〃　教授　薗田　坦　西洋近世哲学史概説　※
研　究　教授　内山　勝利　アナクサゴラス研究　〔共〕
〃　講師　朴　一功　プラトンの正義論　〔共〕
〃　講師　加藤　雅人　中世後期の認識論の諸問題　〔共〕
〃　講師　中村　治　中世後期の自然哲学　〔共〕
〃　教授　薗田　坦　J・ベーメ研究　〔共〕
〃　講師　西谷　敬　近代ドイツにおける政治的・社会的自由の問題　〔共〕

演　習
教授　内山　勝利　演習(1)　Platon: Theaetetus　〔共〕
〃　教授　内山　勝利　演習(2)　古代哲学の諸問題　〔共〕
〃　講師　小池　澄夫　Homerus, Odyssea I～.　〔共〕
〃　教授　中務　哲郎　Aristoteles: Analytica Posteriora II　〔共〕
〃　講師　小池　澄夫　演習(1)　Thomas Aquinas: Summa Theol. I, q. 85, a. 7　〔共〕
〃　教授　山本　耕平　演習(2)　Thomas Aquinas: Summa Theol. I-II, q. 20, a.

演習　教授　山本　耕平　6　〔共〕
〃　講師　宮谷　宣史　演習(3)　Thomas Aquinas: De Spiritualibus Creaturis, a. 3　〔共〕
〃　教授　薗田　坦　Augustinus: Confessiones　〔共〕
〃　助教授　藤田　正勝　演習(1)　I. Kant: Kritik der reinen Vernunft　〔共〕
〃　講師　山形　頼洋　（宗教学専攻の欄参照）　〔共〕
〃　講師　早瀬　明　H. Bergson: Matière et mémoire　〔共〕
〃　講師　茂木　秀淳　G. W. F. Hegel: Der Geist des Christentums und sein Schicksal　〔共〕
〃　教授　薗田　坦　演習(2)　近世哲学の諸問題　〔院〕
講読　講師　山口　義久　Platon: Apologia Socratis　※

## インド哲学史

講義　教授　徳永　宗雄　インド思想史　※
研究　教授　徳永　宗雄　医学文献に見られる哲学思想　〔共〕
〃　人文研教授　井狩　彌介　ヴァードゥーラ・シュラウタストラ研究　〔共〕
〃　講師　林　隆夫　インド数学史研究　〔共〕
〃　講師　茂木　秀淳　初期インド哲学体系の研究　〔共〕
演習　教授　徳永　宗雄　Mahābhārata, Mokṣadharma Parvan　〔共〕
〃　助教授　小林　信彦　Rāmāyaṇa　〔共〕
〃　人文研助教授　藤井　正人　Upaniṣad　〔共〕
〃　講師　矢野　道雄　Viṣṇudharmottarapurāṇa　〔共〕
講読　教授　徳永　宗雄　Hermann Oldenberg, Kleine Schriften より　※

## 中国哲学史

講義　教授　内山　俊彦　中国哲学史概説　※
研究　教授　内山　俊彦　両漢・魏晋の歴史意識　〔共〕
〃　助教授　池田　秀三　韋昭の学問　〔共〕
〃　人文研教授　吉川　忠夫　魏晋の思想と学術　〔共〕
〃　講師　中　純夫　王畿研究　〔共〕
〃　講師　中西　啓子　（仏教学専攻の欄参照）　〔共〕
演習　教授　内山　俊彦　『墨子問詁』　〔共〕
〃　助教授　池田　秀三　章学誠『文史通義』　〔共〕
〃　総合人間学部教授　西脇　常記　賛寧『僧史略』　〔共〕
〃　人文研助教授　麥谷　邦夫　道教思想資料　〔共〕

〃　人文研助手　木島　史雄　王利器『経典釈文考』〔共〕
講読　助手　末岡　宏　『経学通論』※

## 心理学

講義　教授　苧阪　直行　心理学概論
〃　教授　清水御代明　学習と記憶　※
〃　助教授　乾　敏郎　基礎心理学研究法
〃　教育学部助教授　子安　増生　教育心理学　※
研究　教授　清水御代明　概念の表象　〔共〕
〃　助教授　乾　敏郎　脳と視覚　〔共〕
〃　人間・環境学研究科教授　江島　義道　視知覚情報論　〔院〕
〃　人間・環境学研究科教授　鯨岡　峻　関係発達論　〔院〕
〃　総合人間学部教授　山梨　正明　意味論研究　〔共〕
〃　総合人間学部助教授　杉万　俊夫　社会的行動論　〔院〕
〃　総合人間学部助教授　北山　忍　文化心理学の諸問題　〔院〕
〃　講師　菅　千索　多変量解析の理論と応用　〔共〕
〃　講師　市川　伸一　推論と問題解決の認知過程　〔共〕
〃　講師　山鳥　重　臨床神経心理学　〔共〕
〃　講師　松田　惺　自己効力感の発達　〔共〕
〃　講師　佐々木正人　生態学的認知論　〔共〕
演習　教授　清水御代明　教授　苧阪　直行　助教授　乾　敏郎　現代心理学の諸問題　〔院〕
〃　教授　苧阪　直行　心理学演習Ⅰ
〃　教授　清水御代明　教授　苧阪　直行　助教授　乾　敏郎　心理学演習Ⅱ
講読　助手　山下　博志　心理学英語文献講読
実習Ⅰ　教授　清水御代明　助教授　苧阪　直行　助手　乾　敏郎　山下　博志　尾入　正哲　心理学基礎実験　※
実習Ⅱ　講師　千原　孝司　統計法基礎実習　※
実習Ⅲ　教授　清水御代明　助教授　苧阪　直行　助教授　乾　敏郎　助手　山下　博志　尾入　正哲　心理学特殊実験

## 倫理学

講義　教授　加藤　尚武　倫理学概論
研究　教授　加藤　尚武　応用倫理学　※

| | | | |
|---|---|---|---|
| 演習 | 講師 | 水谷　雅彦 | 倫理学と現象学 〔共〕 |
| 〃 | 講師 | 平石　隆敏 | 生命倫理の諸問題 〔共〕 |
| 〃 | 講師 | 神崎　繁 | 〈フロネーシス〉の形成・崩壊・再生 〔共〕 |
| 〃 | 経済学部教授 | 西村　周三 | （社会学専攻の欄参照） 〔共〕 |
| 〃 | 教授 | 薗田　坦 | （西洋哲学史専攻の欄参照） 〔共〕 |
| 〃 | 講師 | 早瀬　明 | （西洋哲学史専攻の欄参照） 〔共〕 |
| 〃 | 助教授 | 藤田　正勝 | （宗教学専攻の欄参照） 〔共〕 |
| 〃 | 人間・環境学研究科教授 | 竹市　明弘 | （哲学専攻の欄参照） 〔共〕 |
| 〃 | 講師 | 薮木　栄夫 | （哲学専攻の欄参照） 〔共〕 |
| 〃 | 講師 | 小林　道夫 | （哲学専攻の欄参照） 〔共〕 |
| 〃 | 講師 | 宗像　恵 | （哲学専攻の欄参照） 〔共〕 |
| 演習Ⅰ | 教授 | 加藤　尚武 | Fichte: Grundlage des Naturrechts 〔共〕 |
| 〃 | 教授 | 加藤　尚武 | 日本哲学史 ※ |
| 〃 | 教授 | 加藤　尚武 | 倫理学の諸問題 〔共〕 |
| 〃 | 総合人間学部教授 | 有福　孝岳 | Kant: Kritik der Urteilskraft 〔共〕 |
| 講読 | 講師 | 仲原　孝 | （宗教学専攻の欄参照） 〔共〕 |

## 美学美術史学

| | | | |
|---|---|---|---|
| 講義 | 教授 | 岩城　見一 | 美学・芸術学の根本問題 ※ |
| 〃 | 教授 | 佐々木丞平 | 日本美術史概説 ※ |
| 〃 | 助教授 | 中村　俊春 | 西洋美術史概説 ※ |
| 研究 | 教授 | 佐々木丞平 | 円山四条派研究(1) 〔共〕 |
| 〃 | 教授 | 岩城　見一 | 思弁的美学から実証的美学へ(4) 〔共〕 |
| 〃 | 助教授 | 中村　俊春 | ニコラ・プサンと古典主義絵画 〔共〕 |
| 〃 | 総合人間学部助教授 | 篠原　資明 | ポスト構造主義の美学 〔共〕 |
| 〃 | 総合人間学部助教授 | 岡田　温司 | ロベルト・ロンギの美術史学 〔共〕 |
| 〃 | 人文研教授 | 曽布川　寛 | 中国絵画史 〔共〕 |
| 〃 | 人文研助教授 | 大浦　康介 | 文学・芸術理論と分析哲学 〔共〕 |
| 〃 | 講師 | 米澤　有恒 | 美学史研究 〔共〕 |
| 〃 | 講師 | 太田　孝彦 | 頂相の研究 〔共〕 |
| 〃 | 講師 | 有賀　祥隆 | 日本仏教絵画史 〔共〕 |
| 〃 | 講師 | 宮島　久雄 | 抽象美術とその周辺 〔共〕 |
| 演習Ⅰ | 教授<br>教授<br>助教授 | 佐々木丞平<br>岩城見一<br>中村　俊春 | 美学美術史学の諸問題 |

〃　教授　佐々木丞平　美学美術史学の諸問題　〔院〕

演習Ⅱ　教授　佐々木丞平　美学美術史学の実地指導　〔共〕
　　助教授　中村　俊春

講読　講師　井面　信行　Kurt Badt, *Raumphantasien und Raumillusionen*, 1963.　〔共〕

〃　講師　島本　浣　Georges Didi-Huberman, *Devant l'image*, 1990.　〔共〕

〃　人文研助手　稲本　泰生　中国美術史関連史料選読

## 社会学

講義　教授　筒井　清忠　社会学概論　※

〃　教授　寶月　誠　社会人間学　※

研究　助教授　松田　素二　地域社会論　〔共〕

〃　総合間学部教授　高橋　三郎　マス・カルチャーの研究　〔共〕

〃　総合間学部助教授　高橋　由典　行為論の再構成　〔共〕

〃　経済部教授　西村　周三　医療制度論　〔共〕

〃　人文研助教授　富永　茂樹　コミュニケーションの空間・Ⅱ　〔共〕

〃　東南ア研教授　加藤　剛　東南アジアの社会と文化　〔共〕

〃　講師　内田　隆三　消費社会の文化　〔共〕

〃　講師　小松　和彦　民俗文化論　〔共〕

〃　講師　原田　隆司　社会調査法　〔共〕

〃　講師　佐藤　卓己　新聞学史―ドイツと日本―　〔共〕

演習　教授　寶月　誠　社会人間学の諸問題

〃　教授　筒井　清忠　歴史社会学の諸問題

〃　助教授　松田　素二　社会人間学の視点

〃　教授　寶月　誠　社会理論の諸問題　〔院〕

〃　教授　筒井　清忠　歴史社会学の理論と方法　〔院〕

〃　助教授　松田　素二　民族文化の諸問題　〔院〕

講読　講師　山下　雅之　仏書講読（P. Ansart, Les sociologies contemporaines）

〃　助手　吉田　純　英書講読（R. Collins, Theoretical Sociology）

研究　東南ア研教授　立本　成文　比較社会科学方法論　〔院〕

〃　講師　新　睦人　比較社会学　〔院〕

演習　併任教授　加藤　剛　多民族社会と国民統合　〔院〕

〃　東南ア研教授　坪内　良博　比較社会学の基本問題　〔院〕

## 宗教学

講義　助教授　藤田　正勝　宗教学概論　※
研究　教授　長谷　正當　経験と言語と超越の問題〔共〕
〃　講師　花岡　永子　心の問題〔共〕
〃　講師　嶋田　義仁　アフリカのイスラム化と都市・国家形成〔共〕
演習　教授　長谷　正當　E. Lévinas: Totalité et Infini〔共〕
〃　助教授　藤田　正勝　Hegel: Phänomenologie des Geistes〔共〕
〃　助教授　芦名　定道　（キリスト教学専攻の欄参照）〔共〕
〃　教授　長谷　正當　宗教学の諸問題〔院〕
〃　助教授　藤田　正勝
講読　教授　長谷　正當　S. Weil: L'intuitions Pré-chrétiennes〔共〕
〃　講師　仲原　孝　M. Heidegger: Von der Wahrheit〔共〕

## 仏教学

講義　教授　御牧　克己　インド・チベット仏教思想史　※
研究　教授　御牧　克己　インド・チベット仏教宗義書研究〔共〕
〃　人文研教授　荒牧　典俊　原始仏教起源論〔共〕
〃　人文研教授　井狩　彌介　（インド哲学史専攻の欄参照）〔共〕
〃　講師　丹治　昭義　中観思想研究〔共〕
〃　講師　中西　啓子　中国禅文献の基礎的研究〔共〕
演習　教授　御牧　克己　梵語仏典選集〔共〕
〃　講師　榎本　文雄　パーリ語文選〔共〕
〃　人文研助手　船山　徹　Sarvadarśanasaṃgraha（仏教学章）〔共〕
講読Ⅰ　教授　御牧　克己　E. Frauwallner, Die Philosophie des Buddhismus〔共〕
講読Ⅱ　教授　御牧　克己　E. Lamotte, Histoire du bouddhisme indien〔共〕
講読　助手　栗原　尚道　初級梵語仏典選集
語学　講師　室寺　義仁　チベット語（中級）〔共〕
〃　助手　高橋　慶治　チベット語（初級）〔共〕
〃　外国人講師　W. Knobl　サンスクリット（四時間コース）〔共〕

## キリスト教学

講義　助教授　芦名　定道　近代世界とキリスト教思想　※
研究　助教授　芦名　定道　キリスト教信仰のダイナミズム〔共〕
〃　講師　荒井　章三　ユダヤ教における唯一神教〔共〕

〃　講師　片柳　栄一　人間的自由について　〔共〕
〃　教授　長谷　正當　（宗教学の欄参照）　〔共〕
〃　講師　花岡　永子　（宗教学の欄参照）　〔共〕
演習　教授　水垣　渉　Athanasius; De incarnatione Verbi Dei　〔共〕
〃　助教授　芦名　定道　P. Tillich: Dogmatik, Marburger Vorlesung von 1925　〔共〕
〃　講師　林　忠良　S. Kierkegaard: Philosophiske Smuler　〔共〕
〃　講師　田辺　明子　『マルコによる福音書』原典講読　〔共〕
〃　教授　長谷　正當　（宗教学の欄参照）　〔共〕
〃　助教授　藤田　正勝　（宗教学の欄参照）　〔共〕
〃　講師　宮谷　宣史　（西洋哲学史の欄参照）　〔共〕

## 科学哲学科学史

講義　教授　内井　惣七　科学哲学入門　※
〃　講師　松尾　幸季　科学史概論　※
研究　教授　内井　惣七　物理学の哲学
〃　総合人間学部教授　越野　茂美　物理学の発展　〔共〕
〃　経済学部教授　西村　周三　（社会学の欄参照）　〔共〕
〃　助教授　伊藤　和行　十七世紀の西欧科学
〃　講師　横山　輝雄　科学論争と科学論
演習　教授　内井　惣七　論理学演習
〃　講師　美濃　正　R. Boyd et al, (*The Philosophy of Science*)
〃　講師　薮木　栄夫　（哲学専攻の欄参照）　〔共〕
〃　講師　小林　道夫　（哲学専攻の欄参照）　〔共〕
〃　講師　宗像　恵　（哲学専攻の欄参照）　〔共〕
〃　助教授　伊藤　和行　T. L. Hankins, (*Science and the Enlightenment*)
〃　助教授　伊藤　和行　d'Alembert, (*Discours préliminaire de l'Encyclopédie*)
〃　教授　内井　惣七　科学哲学科学史セミナー
〃　助教授　伊藤　和行　ホール（『生命と物質—生理学思想の歴史』）　※
講読　助教授　伊藤　和行

# 五　京都大学文学部哲学科卒業論文題目

——平成四年三月——

## 哲学

岡本　昇　初期サルトル哲学における他者の問題
平野桂介　ウィトゲンシュタインの『哲学探究』における「哲学」と「言語ゲーム」

神戸七郎　ニーチェにおける生（Leben）の概念について
田中総一郎　懐疑主義に対するクワインの対応
立木康介　デカルトにおける明証知の確実性の根拠――「デカルトの循環」をめぐって――
岩橋賢知　ニーチェに関する総合的考察
内藤可夫　ニーチェにおける「時間」と「歴史」
妹尾真則　ハイデッガー『存在と時間』における世界の問題――環境世界を手がかりに――

## 西洋哲学史

宇野直子　フッサール初期意味論に関する一考察
沖永荘八　生活世界――フッサール現象学の展開におけるその意義
川村健一郎　カントにおける図式と時間――超越論的反省の立場から見た時間についての一考察――
古村大　ヘーゲルの哲学観について
佐竹由行　トマス・アクィナスにおける魂の本質について
鈴木千秋　『エウチュプロン』における to hosion の定義について
浅沼光樹　「哲学」に関する初期シェリングの見解
折田正俊　プラトン『プロタゴラス』のミュートスとロゴス

## インド哲学史

野田智子　Āpastamba Śrautasūtra における新満月祭の記述

## 中国哲学史

奥村浩　易の思想
藤田登美雄　『駁五経異義』に見る鄭玄の思想

## 心理学

朝倉暢彦　明るさ感覚の情報処理機構について
竹広茂　色の有無が画像の印象及び記憶に及ぼす影響について
橋肇　記憶再生に及ぼす筆記の効果
東海元昭　White's effect 型の刺激パターンにおける明るさ誘導のメカニズム
永田素彦　京都駅ビル景観論争――コンフリクト解析による社会心理学的考察――
羽原洋陽　ラットの恐怖条件づけに及ぼすセイフティ・シグナルの長さと時間的配置の影響
堀田孝弘　流行と独自性欲求
森永寿　異宗教間の葛藤における社会心理学的考察
森村繁晴　事物の典型性と好悪評価に関する発達的研究
山内崇　恋愛感情に関する交際目的からの一考察

大浦宏邦　同調傾向をもつ個人よりなる集団全体のふるまいについて――コンピューターシミュレーションを用いた研究――

小牧暢夫　同音異義語の意味選択における文脈効果

松原哲也　パソコン通信ネットワークの集団としての特性

## 倫理学

犬山裕之　E・フロムの社会心理学における方法と問題

山田孝則　主人道徳と奴隷道徳

岡田貴夫　A. N. Whitehead の知覚論の検討――シンボリズム（Symbolism）を中心として

## 美学美術史学

江上ゆか　クロード・モネ「積み藁」の連作

大久保美紀　マックス・エルンストにおける技法の問題について

小川肇　薬師寺金堂薬師三尊像について

金谷美和　イスラームの文様

北山裕美子　クリムトの〝装飾的〟絵画についての一考察

実方葉子　堂本家本「近江名所図屏風」と近世初期の名所風俗画

進敏朗　Fr. シュレーゲルと近代文学――「ギリシャ文学研究論」を読む

高木文恵　表現における如来と諸菩薩との関係

山辺容子　ロバート・ラウシェンバーグのコラージュ、その平等と自在

三谷理華　ギュスターヴ・クールベ――前半期の作品に関する考察

## 社会学

明司雅宏　ブルデューにおける象徴体系分析について

飯野智　アノミー論についての考察

池永佳代　エロティシズムの社会心理

岩井葉子　戦後日本における親子関係の考察

岡本典子　ベトナム戦争映画に見るアメリカ大衆意識

岡本幸江　テレビドラマの内容分析

小田直人　会話コミュニケーションにおける「誤解」の分析

川田耕　イデオロギー論の検討――アルチュセール理論を中心に――

川松純代　ウェーバーの官僚制についての一考察

草谷緑　児童文学にみられる「良心」の社会学的考察

黒崎博　中間管理層のディレンマ

瀬戸美由紀　宗教意識の比較

田原三枝　相互作用における「快感」に関する一考察

常松淳　フロイトにおける心的人格論の検討

古野泰　役割形成におけることばの機能

三崎富雄　日本野球における独自性
水口康司　「趣味」の社会学的考察――好き・嫌いの感覚を中心として――
八ッ塚一郎　マックス・ウェーバー社会科学方法論に関する一考察――「客観性」論及びその周辺の諸問題について――
山本郁子　「男女平等」理念の受容の様式の一考察
山本ひとみ　ウェーバーの宗教社会学についての考察
若山佳雅　日本的官僚制についての一考察
揚野敏光　少数言語存続条件についての社会学的考察
大隅直人　ネオ・ルーラリズムの現状と課題――京都府北桑田郡美山町の事例を中心に――
岡崎宏樹　モースの贈与論についての一考察
柴村登治　社会構造の多層性に関する考察
中崎学　ウェーバーにおける学問と政治
中田千尋　サリヴァンの対人関係論について――医師・患者関係を中心に対人関係を考える――
山田光輝　生の理念と社会――ジンメルとオルテガを中心に――

## 宗教学

久米健司　ニーチェの永遠回帰について
杉岡正敏　ユング心理学における自我の変化と諸象徴について
田中明子　ラカンにおける主体性
玉木興慈　親鸞の行と信――三願転入を中心として――
藤原睦巳　離脱――独語諸著作・諸説教におけるエックハルトの根本思想
大城太典　W・ジェイムズの宗教観
小泉博　キルケゴールにおける宗教性と世俗性――『哲学的断片』と『死にいたる病』を手掛かりにして――
古屋靖人　『全体性と無限』以前のレヴィナスにおける「倫理的関係」
矢倉弘宣　カントの批判哲学における純粋実践理性の要請（Postulat）について
渡辺はるひ　エリアーデにおける歴史とキリスト教

## 仏教学

神田一世　ニルヴァーナについての考察

## 六　京都大学大学院文学研究科（哲学系）修士課程修了論文題目

——平成四年三月——

### 哲学

山下和也　カント哲学における空間のアプリオリ性

### 倫理学

加嶋治　ウィトゲンシュタインの言語哲学——意味と文法——

白水士郎　カント批判哲学における理性と関心

### 中国哲学史

末永高康　董仲舒天人相関説の再構成

福島一郎　黄宗羲思想の研究

### インド哲学史

池山説郎　Siddhānta Śekhara における天文理論の研究

### 西洋哲学史

中田昇行　フッサール『論理学研究』における志向性の概念

大内和正　プラトンにおける真と偽の問題——『ソピステス』二六三をめぐって——

### 宗教学

布施圭司　ヤスパースにおける実存と超越者

松本直樹　前期ハイデッガー思想に於ける問の経験

### 仏教学

塩見佳正　チベットにおける部派仏教理解の考察——BLO GSAL GRUB MTHA' 第Ⅷ章を中心に——

宮崎泉　アティーシャの菩提心論について

### 心理学

蘆田宏　速度知覚における空間周波数順応の効果

岡田弥　早期失明者の空間理解における触地図の効果

牧野圭子　社会的状況における譲歩・譲り合い行動について

## 社会学

宇城輝人　アルチュセールのイデオロギー論についての一考察

北垣　徹　デュルケームと第三共和政――〈連帯〉の理論について――

藤吉圭二　モースの「社会」概念の検討――「贈与論」を契機として――

小瀬木えりの　Migration の社会学的考察

沼尻正之　ウェーバーの宗教社会学における「方法」

古川　誠　近代日本における同性愛の社会史

## 美学美術史学

小川知子　エドゥアール・マネの作品研究――〈バルコニー〉の意義および位置づけに関する一考察――

加藤素明　プラトンのマニアー論――『パイドロス』二四四a―二五七bをめぐって――

碾波恵昭　運慶初期様式の研究――円成寺大日如来像をめぐって――

前川　修　ヴァルター・ベンヤミンのアウラ概念について

水野千依　模索期の遠近法

鄭　礼京　隋彫刻の成立とその意義に関する考察――菩薩像を中心に――

青山　勝　イメージと芸術

高　貞玉　K．フィードラーの芸術論について――造形芸術活動の意味と構造について――

丁　元鎮　法隆寺金堂釈迦三尊像の祖形について

## 七　博士後期課程学修者氏名（哲学系）

――平成四年三月――

哲学……有馬善一、伊藤均、戸島貴代志、布施伸生、赤井清晃、岩崎豪人、太田伸一

倫理学……八幡英幸

中国哲学史……木島史雄、村田浩、南沢良彦

印度哲学史……伏見誠

西洋哲学史……浦英雄、鎌田雅年、河野一典

宗教学……梅原久美子、松田美佳

仏教学……青山亨

キリスト教学……竹田文彦、信岡茂浩

心理学……石田正浩、高木浩人、宮原絵理子

社会学……小川伸彦、金子雅彦、永谷健、野田浩資

美学美術史学……喜多村明里

# 八　京都大学文学部哲学科卒業論文題目

――平成五年三月――

## 哲　学

佐藤知久　デカルトにおける esprit と âme についての試論

野口良平　パースの意味論

## 西洋哲学史

滝沢航爾　カント『純粋理性批判』における様相概念

松根伸治　トマス・アクィナスにおける悪の問題――『神学大全』一部四八問・四九問を中心として――

## 印度哲学史

室屋安孝　Carakasamhita 4. 1 の研究史及び和訳――その哲学的背景を中心として――

津田研一　『バガバッド・ギーター』におけるクリシュナ神について

## 中国哲学史

西川典寿　老子注における王弼の哲学

庭山博之　顔元思想の一考察

三瓶智章　王陽明の研究

## 心理学

植田智則　重量知覚に及ぼす見かけの大きさの影響

植村徹　成員間の相互作用が集団ゲームの展開に及ぼす影響について

岡和彦　記憶の再生における視点の効果

鈴木秀崇　説得によるイメージの変化

曽我圭司　幼児における色彩感情の研究

多田茂史　日常生活に沿った確率決定モデル試案

田中匠身　好意の返報性と対人評価の関係について

辻出国彦　連辞的比喩理解における顕現特性の転写

土田正樹　難易度の異なる判断に及ぼす情報的影響

中村博行　心理的リアクタンスによる説得への抵抗について

並河勇　イメージの回転における運動感覚の作用について

三輪宗滋　先入観の印象形成に与える影響

森田喜子　ジェンダー・スキーマ論：性タイプの認知的査定

仁科繁明　物体形状の脳内表現

## 倫理学

奥野満里子　異口同音となる倫理的思考

加藤葉子　法による道徳の強制

美学美術史学

石山　睦　シュタイナー建築の有機性について
茂田紀宏　曽我蕭白の作風について
山口洋三　一九一三年から一九一六年におけるパウル＝クレーの「彼岸」と「此岸」をめぐっての考察
山本崇司　初期水墨画における道釈人物画
横山佐紀　小津作品における説話性
吉竹彩子　近代陶磁における富本憲吉
鮎川真由美　アドルノにおける美的経験について
浅谷純子　ヴィターレ・ダ・ボローニャの芸術的価値
阿宗実奈子　絵本についての考察
後藤　南　芸術の社会批判的機能の問題――T・W・アドルノの芸術規定の考察――
辻村郁子　竹久夢二
山下千尋　若冲について
以倉　新　像的なものについて
門屋秀一　カント『判断力批判』における「自然の技術性」について
坂本公成　舞台芸術に於ける身体表現について
本橋　菊　円空の時代背景と思想

社会学

石川琢文　デュルケームにおける宗教の位置
伊東　豊　若者文化に関する一考察
内田祐子　現代における差異の欲求に関する社会学的考察
江口佐和子　インドネシアにおけるナショナリズムと宗教・思想教育――国民国家の「正統性」の起源――
大辻健一郎　「選択的中絶」問題に関する社会学的考察
岡田純一　現代音楽と社会についての一考察
長田雅貴　P・L・バーガーの宗教社会学をめぐる一考察
新谷大樹　ジェンダー問題についてのエスノメソドロジーによる一考察
田野大輔　ナチズムの組織と象徴をめぐる一考察――千年王国論から二元論へ――
筒井清輝　ナショナリズムに関する歴史社会学的考察
堤　丈明　擬似環境に関する数理的考察
坪田美紀　〝死〟の社会学的考察――死の美化に関する一検討――
中尾裕紀子　ルネ・ジラールについての社会学的考察
中浜葉月　「ゴッホの精神障害」に関する社会学的考察
奈良暢明　他者性についての社会学的考察

野崎賢也　近代日本農本主義についての一考察
野田優子　学校選抜試験についての考察
野村雅俊　日本人の笑い――アメリカとの比較による社会学的分析――
羽根和人　日本型資本主義の社会学的考察
輻由美子　現代におけるカリスマ
古野富久　消費社会論に関する一考察――現代の「消費者」像を中心に――
松田恵子　子どもの遊びについての社会学的考察
宮崎博昭　住民運動の現状と問題点
盛将孝　性差別についての社会学的考察
網島博史　環境保護運動の思想的背景に関する考察～自然観・環境倫理をめぐって
大塚健志　デュルケームの教育論
小林千穂　ゴフマンの「役割距離」について
巽信幸　「農村居住都市住民」に関する考察――交通と情報：八ヶ岳山麓の移住者へのインタビューを中心に――
調子康弘　脱都会派新規就農者に関する考察――産業社会の変容に関連して――
伏見浩一　ブランド・イメージとCI戦略
三橋岳　日本近・現代の住宅と家族

## 宗教学

今西昌子　ライプニッツのモナドロジーについて
入野陽　ベルクソン哲学における直観
小塚祐司　ティリッヒの経験の概念――組織神学を中心に――
小野真　マルチン・ハイデッガー『存在と時間』の研究――先駆的覚悟性と諸概念――
中山克一郎　解放神学と共産主義――現代キリスト教の救いの限界――
足利直哉　ハイデッガーの存在論的時間論
猪倉孝夫　ヘーゲル論理学における思惟の発展について
井口達也　ライプニッツにおける無限小と不可分について
中尾真範　ニーチェの宗教観について
長岡達也　ジョルジュ・バタイユの宗教論――『宗教の理論』における「理性」と「聖性（宗教性）」の位相――

## 仏教学

武田公裕　ナーガールジュナについて

## キリスト教学

中村いづみ　C. S. Lewis の悪魔観

問島晃洋　アウグスティヌスの回心における記憶の役割について
今井尚生　ティリッヒの象徴論における「参与」
金井由嗣　コーヘレトにおける神と知恵

## 九　京都大学大学院文学研究科（哲学系）修士課程修了論文題目

――平成五年三月――

### 哲学

増田玲一郎　自然な推論の形式化について

### 倫理学

伊勢田哲治　パトナムの指示の不確定性の議論と形而上学的実在論

### 中国哲学史

亀田勝見　葛洪における人間と命
欧潔蓮　魏晉南北朝の歴史意識――千宝の史学思想を中心とする――

### インド哲学史

杉田瑞枝　Bhat Utpala による Bṛhat-Saṃhitā 注釈の特徴
山下勤　Āyurveda による身体論について――Carakasaṃhitā と Suśrutasaṃhitā の Śarīrasthāna を中心として――

### 西洋哲学史

折橋康雄　知と時間――ディルタイにおける学の基礎づけと実在的時間の問題をめぐって――
次田憲和　超越論的現象学の可能性
広川夏樹　トマス・アクィナスにおける被造的知性による神の認識――『神学大全』第一部第一二問を中心に――

### 宗教学

安沢幸代　W・ジェイムズのプラグマティズム――その由来と展開――
脇坂真弥　カントにおける悪の根拠と自由の問題――道徳論から宗教論へ――

### 仏教学

乙川文英　bsam gtan mig sgron の研究

### キリスト教学

武藤慎一　クリュソストモスの解釈学――神理解の可能

性と不可能性の問題を巡って――

**心理学**

大須理英子　人腕の楕円軌道運動における曲率と速度の関係の検討

近藤正裕　発話行為の想起における表現の水準

松浦ひろみ　子どもの語意獲得過程について

**社会学**

中里英樹　近代日本における家族観の再検討

水垣源太郎　社会学におけるカリスマ概念の再検討――カリスマとしての日蓮――

**美学美術史学**

荒木浩　カンディンスキー　ミュンヘン時代の作品

奥山志穂　高山寺蔵　仏眼仏母像考――その白色表現をめぐって――

金井直　アントニオ・カノーヴァと「古代」――《勝利するペルセウス》《イタリアのヴィーナス》について――

柴田いずみ　サン・スヴェールのベアトゥス写本挿絵の様式――挿絵画家の共同制作過程との関連について――

鈴木幸人　宗達水墨画研究――描法から見た宗達画の特色――

## 十　博士後期課程学修者氏名（哲学系）

――平成五年三月――

哲学……橋本康二、山本与志隆

倫理学……松王政浩、山下智志

中国哲学史……呉震

西洋哲学史……藤本温、山脇雅夫

宗教学……林伸一郎

仏教学……李在浩、石田智宏

心理学……青木竜生、中島欣哉

社会学……大川清丈、城達也、高暁東

美学美術史学……秋庭史典、山崎美樹

## 十一　木曽好能教授の御逝去

会　告

京都大学文学部哲学講座担当教授、木曽好能先生は、平成六年十月三日、社会保険京都病院において、胃がんのために逝去された。享年五十七歳。

先生は昭和十二年一月十日大阪市にお生まれになり、昭和四十六年三月京都大学大学院文学研究科博士課程哲学専攻を単位修得退学された。その後京都大学文学部助手となられ、助教授を経て、昭和六十三年哲学・哲学史第一講座担当教授となられた。この間二十有余年にわたって哲学の研究、教育指導に専心当たってこられた。先生の専門は分析哲学およびイギリス経験論哲学研究であり、特にヒュームに関する長年の研究の成果は、本年二月刊行のヒューム『人間本性論』（第一巻翻訳ならびに研究）において集大成されている。また先生は長年にわたって『哲学研究』の委員を務められ、近年は編集代表としてその発展に尽力された。

ここに謹んで先生の御冥福をお祈り申し上げる。

平成六年十一月

京都哲学会

## 十二　武藤一雄名誉教授の御逝去

会　告

京都大学名誉教授、武藤一雄先生は、一九九五年六月二七日午前一一時一四分、肺炎のため逝去された。享年八十一歳。葬儀は七月一日、京都の平安教会で執り行われた。

先生は、田辺元博士のもとで哲学を学ばれてから、旧制松本高校、三高、新制京都大学教養部で教えられた。一九五七年一月に文学部キリスト教学助教授に着任、一九六二年一一月に有賀鐵太郎教授のあとを襲い、一九七七年三月に定年退官されるまで宗教学第二講座でキリスト教学の教育と研究に専心携わられた。

先生の著作としては、『神学と宗教哲学との間』（一九六一年）、『宗教哲学の新しい可能性』（一九七四年）、『神学的・宗教哲学的論集Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』（一九八〇年、八六年、九三年）などがあげられる。これらの著作によって先生は、キリスト教学を神学的宗教哲学として普遍的に基礎づける試みを展開された。そこで開かれた独創的で深い立場は、現在内外の多くの研究者の注目と尊敬を集めつつある。先生のご指導に感謝を捧げるとともに、謹んで哀悼の意を表する。

一九九五年七月

京都哲学会